

2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 デザイン・アート学部「総合評価方式(視覚表現型 1期)」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	最終合格者数
デザイン・アート学科	59	19
計	59	19

(2) 本入学試験の目的

構想力を重視の総合型選抜と位置づけており、面接時に「視覚表現」、エントリーシート等の出願書類の内容と、当日持参する視覚表現に関する質疑応答を含めた面接を通じて、アドミッション・ポリシーに適合する人材かどうかを判断します。

2. 試験内容

視覚表現については、事前に出題されたテーマに沿って、受験生の問題意識、調査内容や制作にあたっての考えや創意工夫について確認しました。また面接では、視覚表現に関する質疑応答や、エントリーシートに基づいた質疑応答を行い、アドミッション・ポリシーに適合するかを確認しました。

3. 出題の意図

視覚表現については、日常の中で「あたりまえ」とされている価値観、社会のしくみなどを見つめ直し、その意味や前提を問い直すようなテーマを出題しました。自分なりの問題意識や気づきを出発点に、身のまわりの事象に対して新たな見方や提案を構想し、思考のプロセスを視覚的に表現する力を評価することを意図しています。

エントリーシートでは、自己の経験に対する振り返りが十分に行われているか、本学部で学びたい理由や動機が明確であるかについて把握することを意図しています。

4. 評価のポイント

視覚表現については、自分の問題意識にもとづいてテーマの意味を問い直し、調べ、考えたことをもとに、独創的な表現や構想になっているかを評価しました。また、完成度よりも「なぜこのように表現したのか」という思考プロセスや個人の関心が表現されているかを重視しました。

エントリーシートについては、高校生活をはじめ近年(直近3~5年程度)で取り組んだ活動について、活動のプロセスや他者との活動における成果、それに対する自己評価、他者との協働における自身の役割や協働に成果の分析が行われているかを評価しました。また、この学部で学びたい理由や動機が明確であるか、学部での学びを自身の目標達成にどう生かしていくかを具体的に示しているかを評価しました。

面接では、洗練された言葉や形式よりも、受験生自身の言葉や心からの表現で説明しているか、批判的な思考を持ちつつ、面接官と対話的な質疑応答ができているかを重視しました。

5. 解答状況

視覚表現では、課題の問いを的確に読み取り、自分の視点で理解・思考・再解釈を深めつつ他者や社会の視点も取り込みながら、適切なメディアを用いて具体的な提案として表現していたものが高く評価されました。エントリーシートでは、活動の成果に対する分析が的確に行われ、視覚表現との関係性が明確に示されている内容のものが高い評価を得ていました。また、面接では、視覚表現の内容に加え、表現の背景やそこに至るまでの試行錯誤の過程も明確にわかりやすく説明できた受験生がより高く評価される傾向にありました。

一方で、視覚表現については「問いの理解が不足している」「思考・制作プロセスが不明瞭である」「表現の検討が不十分である」ものなどがみられ、その結果、内容が伝わらないものが見られました。エントリーシートについては、活動の記録を列挙しただけのものや、学部での学びの計画が漠然としたものが見られました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

視覚表現では、これまでの自身の活動や経験を振り返ることに加え、日常の中で「あたりまえ」とされている価値観、社会のしくみなどを見つめ直す機会をできるだけ多く作ることを推奨します。自分なりの問題意識や気づきを出発点として、身のまわりの事象に対して新たな見方や提案を構想するとともに、「なぜ自分はそう感じたのか」を掘り下げ、「まだ気付かれていない課題や問題がないか」を探してみてください。そして、その違和感を解決するための新しい答えを見つけることに挑戦してください。

また、視覚表現のテーマは、答えがひとつに定まるものではありません。大切なのは、何を考え、どのようにその過程を見えるかたちにしたのかという点です。自分の考えの流れや気づきが見る人に伝わるよう、表現や構成を工夫することを心がけてください。

エントリーシートでは、自身の活動に対する分析と視覚表現の着想との関わりが明確になるよう留意してください。また、学部の公式ホームページやパンフレット、オープンキャンパスなどを活用し、具体的な学修計画を立てることが重要です。

以上